

## 第6回 電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会 議事要旨

平成 25 年 10 月 10 日 (木)

13 時 30 分～15:00

伊勢市役所本館 4 階大会議室

### 1. 開会

(事務局)

・定刻となりましたので、今から第6回電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会を開催いたします。開会にあたりまして、三重県環境生活部長竹内望よりご挨拶申し上げます。

(三重県環境生活部長 竹内)

・本日はお忙しい中、また10月の中旬にもかかわらず暑い中、第6回の協議会にご参加を頂きまして誠にありがとうございます。開会にあたりまして、事務局としてご挨拶申し上げたいと思います。

・協議会につきましては今回が本年度2回目の開催ということになります。協議会の皆様には大変ご協力頂きまして、いろいろなテーマについて精力的にご議論頂いて参りました。昨年度には「おかげさま Action!」を策定。今年度はこの内容に基づきまして、着実に一步一步取り組みを進めているという状況です。これも、協議会の皆様、朴先生、菊川副会長、それから伊勢市様皆様のご理解とご協力の賜物であると感じております。本当にありがとうございます。

・本日の議題ですが、①先に公募を行っておりましたシンボルマーク、それからピクトグラムの設定結果について発表させて頂きます。併せて、その活用をご検討頂きたいと思います。それから、②協議会で購入いたしましたコムス、NTN様から貸与頂けるEV電気自動車などの活用についてご検討頂くことになっております。積極的なご意見をぜひよろしくお願いいたします。

・また③本協議会終了後外宮参道広場で、県の石垣副知事も参加させて頂きながら、NTN様から貸与の電気自動車を皆様に展示させて頂きます。ぜひご覧ください。

・最後になりますが、この取り組みを通じまして、伊勢市における低炭素なまちづくりが進むことを祈念いたしまして、簡単ですがご挨拶とさせて頂きたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

・続きまして、松下伊勢市副市長からご挨拶を頂きます。

(松下副市長)

・皆様こんにちは。副市長の松下でございます。今日はお暑い中、またお忙しい中このようにお集まり頂きまして、ありがとうございます。

・皆様ご案内のことと思いますけれども、2日の日に内宮様、5日に外宮様が遷御を滞りなく終えられました。また本日は、内宮第一別宮の荒祭宮様の遷御の儀がございます。引き続いて13日には外宮第一別宮でございます多賀宮様の遷御の儀がございます。残る12の別宮につきましては、来年の秋から再来年の春にかけて、遷御の儀が随時執り行われることになっております。

参詣者の数につきましては、9月末現在で950万人を超えまして、この1年間で1300万人を超えるだろうという予想をしております。

また昨年でございますが、内宮様が前年度比40%の伸びとなったのに加え、外宮様の方も71%（参詣者数が）伸びております。

・いよいよ外宮のにぎわいが戻ってきたと見られ、舞台は用意されたと思っております。9月の末には、(NTN社電気自動車の)貸与式をさせて頂きました。コムスにつきましては近日中にレジ袋検討会の方から、協議会の方へ贈呈式が行われると聞いております。当面、この協議会に参加頂いている団体様にご利用頂きます

・第二段階としましては、観光ルートを発掘し、そこでの活用を考えていかなければならないと思います。皆様には引き続きましてご支援のほどをお願いいたします。以上でごあいさつとさせていただきます。

(事務局)

・どうもありがとうございました。続きまして、この協議会の会長でもある朴様にごあいさつを頂きたいと思っております。

(朴会長)

・みなさまこんにちは。当協議会会長を務めております朴恵淑と申します。

・さきほど県の竹内環境生活部長、伊勢市副市長からお話がありましたように、現在は毎日のように新聞ラジオなどで伊勢の話が採りあげられております。伊勢市民の百倍以上の方が、言ってみれば日本の国民の10人に一人が伊勢を訪れるという歴史的な状況が起きています。

・そんな中私たちは、環境と文化という視点から、もっともっと伊勢を知らしめることができるわけです。私たちは、電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会の実現という視点から話し合いを始め、最初は色々な場面で進められない状況も見られましたが、色々な取り組みが生まれました。伊勢市を世界に誇ることでできる低炭素社会のモデル都市にしたいという（この取り組みは）、最初は無理かと思われましたが、やっぱり取り組んで良かったと感じています。

・ただ（2年目の）今も始まりに過ぎません。終わりのない目標に向かっている私たちの仕事は、まだまだ長い道のりでございます。強いところはより強く、弱いところはみんなの知恵と力で補いながら、もっともっと高みに向かってやっていきたいと思っております。

・「ホップ、ステップ、ジャンプ」などと申します。（この協議会は）ホップとステップの段階は、いつの間にか越えたものと思います。これからのジャンプというものが非常に楽しみです。気を緩めることなく、これからもやっていきたいと思っております。

・今日は暑い中お集まり頂きましたが、15時半頃を目途に協議を進めて参ります。また16時から、NTNさんから貸与して頂く超小型モビリティに（みなさんで）試乗してみたいと思っております。盛りだくさんの予定がつまっておりますが、皆様、最後までご協力をよろしくお願いいたします。

(事務局)

・どうもありがとうございました。この後は議事次第により進めて参りますが、その前に、本日お配りした資料の確認をさせていただきます。（資料確認）

・申し遅れましたが、私本日の進行を務めさせていただきます三重県地球温暖化対策課の森口と申しま

す。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2. 議事

(事務局)

・それでは、新規参画者の紹介にうつらせて頂きます。今回から、ヤマト運輸株式会社、横浜ゴム株式会社に参画頂いております。簡単に自己紹介をお願いいたします。

(ヤマト運輸(株) 別所氏)

・はじめまして。ヤマト運輸社会貢献課別所と申します。  
・私どもも、伊勢市内で日々30台ほどのトラックが宅配業務でお世話になっております。そういった中で低炭素、(あるいは)環境は、弊社にとっても今後大きな問題となって参りますので、こちらに参加させて頂いて勉強させて頂こうと思います。参加させて頂くこの貴重な機会を活かしてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(横浜ゴム(株) 大見氏)

・みなさまこんにちは。横浜ゴム環境事務局の大見と申します。隣は関岡と申します。  
・市内に(弊社の)工場がございまして、社長以下、みなさまに認められる環境貢献企業を目指しながら、日々活動をしています。また、「ブルーアース」という商品名で、地球環境に貢献しようという意図から、エコタイヤ商品も開発しております。  
・今回より参画させて頂いて、一つでも環境に役立てるようなことをしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(事務局)

・どうもありがとうございました。3番の議題以降の進行につきましては、朴会長にお願いしたいと考えております。朴会長よろしくお願いいたします。

(朴会長)

・では、事項書に基づきまして進行をさせていただきます。今日は大きく二つの議題がございます。  
・まずシンボルマーク、ピクトグラムを活用についてですが、事務局の方から説明を頂いたうえで、みなさんの方から意見などを伺いたいと思います。

(三重県地球温暖化対策課 太田)

・三重県地球温暖化対策課 太田と申します。よろしくお願いいたします。(資料2「シンボルマーク等の選定結果等」参照)  
・平成25年8月1日~9月5日を応募期間として、この協議会の活動を示す「シンボルマーク」と、充電施設の設置場所を示す絵文字「ピクトグラム」のデザインの募集を実施。募集に際しては、伊勢市内の小中学生すべてに対し、夏休みの宿題になるように、夏休み前に応募案内を配布。伊勢市内の新聞折り込みでチラシを5000部ほど配布した。協議会のみなさま方からも広くご案内頂いた。近隣府県の図書館、美術館等、文化施設にもチラシを配布。デザイン専門学校などにも個別に配布。芸術系を含めた募集の案内を掲載する月刊誌「公募ガイド」にも、広告含め情報を掲載。

ホームページにも掲載したほか、英語版のチラシなども作成し、海外デザイン学校への呼びかけなども実施した。

- ・その結果、シンボルマーク 136点（小中学生 19点含）、ピクトグラム 139点（小中学生 25点含）の応募があった。

- ・9月13日に行われたデザイン選定委員会では、デザインのプロとして三重大学の岡田先生、デザイナーの田中先生に入って頂き、さらにこの協議会メンバーである堀井様、高橋様、西村様、大野様に来て頂き、選定を行った。

- ・シンボルマーク最優秀賞には宮崎県在住の児島満さんの作品を、またピクトグラム最優秀賞には四日市のデザイン専門学生、中村圭志朗さんの作品が選ばれた。シンボルマーク特別賞としては伊勢市立進修小学校3年の浜口希望（のぞみ）さんの「でんカーくん」と名づけられた作品を、ピクトグラム特別賞には伊勢市立厚生中学校3年の稲垣成葉（なるは）さんの作品が選ばれた。

- ・10月13日に県営サンアリーナで開催される伊勢市環境フェアの開会直後に、「おかげさま Action!」のデザイン発表会をし、先ほどの4名の受賞者の表彰も併せて行いたい。環境フェア当日には各メーカー様の協力により電気自動車の展示も予定している（別紙1に出展内容記載）。協議会で購入の4台のコムスも展示予定。

- ・このような形でデザイン選定委員会によりデザインを選定させて頂いた。また、その発表会と表彰をさせて頂くということをご報告させて頂いた。

- ・（今後は）シンボルマーク等の広報ということで、これを活用していくということだが、このシンボルマーク等をぜひ伊勢市内でたくさんつけて（市民の）みなさんに見て頂きたい。電気自動車他、車両につけて頂くほか、参画メンバーの方々（の事務所や店舗内）でポスターなどを掲示して頂くことを事務局から提案させて頂きたい。

- ・ピクトグラムに関して。ホームページには当然掲載してもらおうが、「伊勢発のこのピクトグラムを全国で使って頂きたい」というのが昨年来の議論結果であった。全国にこのピクトグラムを発信し、各所で使って頂けるものにできたらと思う。（ピクトグラムに関して）協議会に参画頂いている方につけて頂いたり、また作業部会で進めている充電施設の設置運用指針の中にも、充電器を表示する場合のルールを決めていく必要がある。そのルールも併せて広く告知して活用して頂きたい。

- ・広報については、（資料内に）ポスターチラシ案を添付した。店舗などに貼って頂く場合は、協議会の趣旨、およびそれに賛同して活動していることが（宣言のような形で）わかるようなものを作れないかということで事務局で作成しご紹介しているものである。

- ・また、別紙にてシンボルマークとピクトグラムを併載したチラシ状のものを添付している。現在直径8cmぐらいのシンボルマークのステッカーも、13日の環境フェアに間に合うように準備している。これらのようなものも作成・配布させて頂きたい。

- ・今後の広報について皆様にご意見頂きたい。

（朴会長）

- ・ありがとうございました。ただ今の説明についてみなさまから質問はありますでしょうか。

- ・私から1点確認させて頂きたい。（資料の中の）「ポスター・チラシ案」のところに「おかげさま Action!」のシンボルマークが印刷されているが、その下部、「伊勢市低炭素社会創造協議会」の名称表示がギザギザした形状になっているが…

(事務局 太田)

- ・申し訳ございません。私がパソコンで作った案のため低画質のロゴをつけてしまった。

(朴会長)

- ・(今後は) ポスター・チラシ・シールなどを様々なところに貼って頂くなど、広報に使われると思うが、その基になるのはきれいな(画質の細やかな)ものになるのか?

(事務局 太田)

- ・皆さんに本日ご意見を頂き、最終的にはきれいなデザインのデータを用意する。

(朴会長)

- ・勝手に会社の名前などを入れられるなどしては困る。デザインとして使う時の使い方をデータなりファイルなりをフィックスすることになる。いまのデータを高画質にするというのは、若干無責任に思う。
- ・たとえば(追加ロゴなどを)曲線的に配置する場合があったり、直線的に配置したり等、人によって異なっては困る。私たちがこのシンボルマークを活用する時のある程度のルールや形式を、ここで決めさせて頂かなくてはいけないと思う。「(追加ロゴの扱い方も含めて、事務局側が)このようにしたい」ということなのかと思うが、(この会議では進め方を)どうしたらよいのか。

(事務局 太田)

- ・「ポスター・チラシ」というタイトルで添付している資料ですが、これは一つの例として挙げた。みなさまに使って頂くものとしては、(追加ロゴも含めて)高画質なものを用意する。
- ・どのような書き方をするかについて。シンボルマーク、ピクトグラムについては現在商標登録の準備中。使用方法についてはルールを決める必要があり、それを決めていきたいと考えている。

(朴会長)

- ・決まったシンボルマーク、ピクトグラムをそのデザインのまま使っていくのはもちろんだが、我々がどのような思いを込めてやっているのかについての必要最小限のことを、初めて見る方々に伝えなければならない。せめて、これ(シンボルマーク、ピクトグラム)は、低炭素社会をつくる(ための取り組みを示す)んだよという意図・責任を協議会でもち、企画をし、呼びかけをすべき。(それをベースにした)使い方を協議会で決めさせて頂きたいが、どうか?
- ・たとえば、「伊勢市…」というような表示はつけず、シンボルマークはそのもの単体で使った方がよいということなのか、あるいは(追加ロゴを使用する場合は)なるべく丸い形状を原則とするなど、基本的なところの意見を頂き、決めたい。
- ・シンボルマークもそうであるし、ピクトグラムも同様に考えて良いか?

(事務局 太田)

- ・ピクトグラムについては充電施設の設置運用作業部会で議論して頂き、さらに協議会でもご意見を伺ったうえで、表示方法を決定したい。

(朴会長)

- ・ピクトグラムに関しては、実際に設備ができているところに（設置）工事をするので、若干（ルールを考える時間的に）余裕があると思う。ワーキングなりで案を出し協議会にあげ、決めればよい。
- ・シンボルマークに関しては、13日に市民の皆様には披露することが決まっている。せっかく「おかげさま Action!」としてこれから使っていくものとして決まったシンボルマークなので、その場で展示される超小型モビリティや電気自動車等の車両などに貼る予定である。また、そのためにみんなで急いで頑張ってきた。つまり、シンボルマーク（のデザインルールを決めるの）は、ワーキング云々（の過程を経て決める）のは時間的に無理。ここで決めるしかない。
- ・いま提案されているの（追加ロゴのデザイン）は、形状、大きさ、色といった点でこれでいいのかが当初に決めないと（ポスターを公の場で）貼ることができない。みなさん（論議のうへの決定を）お願いしたい。

(伊勢商工会議所 中村氏)

- ・いま、ギザギザの形状で入っている「伊勢市低炭素社会創造協議会」も含めたものが、一つのシンボルマークとなるのか？

(朴会長)

- ・シンボルマークには「伊勢市低炭素社会創造協議会」の部分は含まれない。シンボルマークのデザインは決まったが、その（デザイン面での）活用法を考えるとということ。

(伊勢商工会議所 中村氏)

- ・13日に発表するのは、協議会名称が入っていないシンボルマークのみを発表するというのか？

(朴会長)

- ・（それを）ここで決めないといけない。今後はシンボルマークのみ（の使用）だけでなく、協議会名称が入った形での使用、などが考えられる。シンボルマークのみで使うのか、協議会名称を入れるのか、入れるならその（デザイン的な面での）方法を決めなければいけない。

(伊勢商工会議所 山川氏)

- ・協議会名称を入れる場合、この入れ方でいいのか、ということが1点。
- ・また当協議会の正式名は「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」ではなかったかと思う。それをすべて入れなくていいのか？という点もある。

(朴会長)

- ・そこをふまえた議論をお願いしたい。

(伊勢商工会議所 菊川氏)

- ・（朴会長が指摘したとおり、議論の余地があるのは）おそらくここ数日のことかと思う。

- ・さきほど、「ステッカー」の制作も話題にのぼったが、その形状は四角なのか円形なのか？現状だと円形をイメージしていると思うが…
- ・ピクトグラムというのは「絵文字」のようだが、「湯」「水」「茶」という場合は色などで表現できる部分があるが、今回決定されたピクトグラムの形と色だけでは普通充電器なのか急速充電器なのか、また一般の人が無料使用できるのか、有料なのか。また、充電器が設置されている場所にあるのか、ただ車に貼るだけなのかがわからない。ピクトグラムの使い方を教えて欲しい。

(事務局 太田)

- ・先ほど朴会長がおっしゃったように、(「おかげさま Action!」のシンボルマークという場合は)協会の名称の入っていないものがシンボルマークとなり、それを商標登録申請している。実際活用する際は、団体名なりを追加記載して使うことになる。その時のデザイン的なルール、枠組を決めていこうということかと思う。そのバリエーションの一つとして事務局からの案として提案した。
- ・シンボルマークのステッカーの形状は、デザイン的には名称を丸い形に入れて、発注作業を進めている。
- ・ピクトグラムについて、(指摘の通り)普通充電/急速充電がわかるように(追加)表示をする必要がある。「普通」「200V」「急速」と(追加)表示したり、色を変える工夫が必要である。
- ・(このピクトグラムを)つけるのは、充電器がそこにあるということがわかるようにする必要があるので、(充電器の場所を示す)看板や、充電器そのもの、また充電器の設置場所を示す地図上などに使用することになる。

(伊勢商工会議所 菊川氏)

- ・(議事次第の)議題(の項目)として「活用について」と書いてあるが、その活用の方法を決めるのがこの場なのか？(ポスターやステッカーなど)もう印刷をかけているのであれば(議論している余地はないので)はっきりおっしゃって頂き、報告として進めるべき。
- ・(ただし)今後、こういった宣言をして頂いた企業には、(ルールを明記したデザインマニュアルの)ファイルなどを渡し、「ここに各企業名をこのように入れてシンボルマークを活用して下さい」というようにしないと、報告がなかなかできないと思う。ピクトグラムの追加表示をどうするか、等も含めて、(事務局としての)どうしたいかという考えをおっしゃられたらどうか。

(事務局 太田)

- ・充電器のピクトグラムについては、作業部会の方でどなたにも充電器を使って頂けるための指針作りをしているので、そちらで具体的に検討を進めたい。
- ・シンボルマークについては、事務局としては丸い形状で「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」と(フルネームで)書いたパターンがあったり、「伊勢市低炭素社会創造協議会」という(簡略化した)ものがあったり(してもよいのではないか)。また場合によっては、丸形状ではなく、まっすぐ(直線上に)書くのもいいのではといま現在は思っている。

(朴会長)

- ・ピクトグラムに関しては(デザインに関する使い方の)ルールを決めるには時間が必要であるし、時間的な猶予もある。

・シンボルマークに関しては13日の披露を控えているため、「色々なバージョンがあっても良い」ということなのかあるいは「我々協議会の名称の入れ方については、正式に、丸い形で」などと決めるべき。(協賛企業に、そちらでデザインの扱いは勝手に)「みなさんで決めてください」というのは無責任だと思う。こちら(協議会側)が「このように使うんだよ」ということは、意思表示とともに伝えるべき、と思う。なので表現の仕方については(指針をこの協議会の場で)決めて頂きたい、と思う。知恵を貸して頂きたい。

(NTN株式会社 松尾氏)

・「おかげさま Action!」の絵(シンボルマーク部分)については、商標登録される予定になっている。商標登録の主体となる協議会が、こういう趣旨(およびルール)にのっとりこの商標を使用してよいという基準を決め、企業または団体なりに(このマークを)使って頂く、というようになると思う。これの詳細については、(事務局の)太田さんの方で考えて頂ければ良いのではないかとと思う。

・二つ目は、商標と(となるシンボルマークに含まれない)文字(当協議会の名称表示)の点。現在提案されているもの(伊勢市低炭素社会創造協議会)は略称だと思うが、これは私どもが用意した電気自動車のボンネットや後部に(このシンボルマークの表示を)用意しているが、デザイン関係の方に訊くと、やはり表示名称が長いとなかなか見にくいという意見が出る。(それをふまえて)事務局の方でこういう提案をしていると思う。私どもとしては、自動車のボンネットに貼る場合には、このように丸形の略称にして頂くのが良いと考える。

・今後の(当協議会の名称表示の)やり方としては、正式名称をすべて表示する方が良い場合も(今後起きてくることが)考えられる。使う時、場合、用途などに応じて(名称表示の)文字は略称にしないで書いてはどうか。

・また、(当協議会ではなく)企業がこの名称を使っていいかどうかについては、協議会が商標の許可をルールに則って下す必要があるが、そういう場合もあり得るとして、事務局の方でもう少し精査して頂ければよいのではないかと。

(朴会長)

・色々な意見を頂戴して、納得いくような形で決めていきたい。急なことで申し訳ないが、13日に披露していく(という予定の途上にある)中で、ある程度のものを決めてもらわないと(いけない)。「このデザインは適当に使ってください」ということで良いなら、それでも良いかもしれないが、色々なところで(このマークを活用しながら)私たちの趣旨なども活かすことができるのではないかと。いま、一つの提案が出たが、その他は?

(豊田通商株式会社 浅井氏)

・とにかくまず事務局の方で、どういう使い方をするかということを決めて出された方がいいのではないかと。マークはもう決まっている。あとは、誰にどう配布するか、どういう使い方をするか、そのときにどういう風に名前を入れていいか。これに関してはまず原案をつくって、それを検討しながら、その他の使い方があるということなら、それにつけ加えていく(という風にするのが良いと思う)。誰に、どう配布するかのをたたき台(についても)まず作って頂いた方が良く思う。

(朴会長)

- ・たたき台の一つとして提案されているのが今回のものだと思う。

(事務局 太田氏)

- ・広報の一つとしてこれを提案したが、浅井さんがおっしゃったのは、活用のルールを含めて事務局で整理してつくってはどうかということと思う。それはそれで整備していかなければいけないが、朴先生がおっしゃっているのは、13日にもう使わなくてはいけないので、基本ルールの枠組といえますか、「こんな風に使っていきたい」「こんな方法で使っていくんだ」という例が出れば、それをベースにルールを決めていけるのでは？と思う。

(豊田通商株式会社 浅井氏)

- ・太田さんがおっしゃったように、例をまず出して頂く。例として出して頂いた方が良いのではないか。

(事務局 太田)

- ・(今日の議事としては) ポスターという一つの例と、ステッカーをお配りするという例を出させて頂いていると考えて頂きたい。
- ・この場で企業名を入れることが良いかどうかを決めてはどうかということもあるかもしれないが、ほかに活用方法、「こんなところに(シンボルマークを)貼れるのではないか?」という意見がありましたら、それをベースとしてまとめてルール作りをしていきたい。

(朴会長)

- ・(ほかに意見がないようなので) ではこういう風にさせて頂きたいと思います。事務局中心としてワーキングで、(シンボルマーク・ピクトグラムに) どのような活用の方法があるのか、どのようなバージョンがあるのか等々を考えて頂いて、次の協議会に提案をして頂きたいと思う。
- ・しかし、13日に(このシンボルマーク・ピクトグラムは) お披露目をする。しかもそこには電気自動車等が(展示車両として) 出てくる。せっかく商標登録までやっているのだから、そこにシールでもなんでも(貼っていかなくてはいけない)。(だから) こういう風に使われるんだよというのを(ここで) 決めて頂きたいと思う。「シンボルマークだけで貼りましょう」「(事務局から提案されている) 伊勢市低炭素社会創造協議会の表記にする」「正式名称にする」「丸形のデザインではなくまっすぐにする」…いろいろ選択肢はある。13日には時間があまりないので、(13日に表示する分だけでも) 決めて頂けると有り難い。

(伊勢市 松下副市長)

- ・このパターンで発注しているのではないのか?

(事務局 太田)

- ・お配りしている形で、8cm×8cmのステッカーは既に発注している。

(伊勢市 松下副市長)

- ・車に貼るステッカーについては？

(事務局 太田)

- ・車についてはNTNさんに先行して準備して頂いている分があるので、そのデザインで（ペイントを）進めている。
- ・コムスに貼る物については、急遽準備中。変更も、材料がそろえばできる状況。

(伊勢市 松下副市長)

- ・実際問題、日にちがない。会長がおっしゃったように活用方法は色々なバージョンが出てくることが考えられる。（現在事務局から提案された）このバージョンもそれらの中の一つとして出てくるのではないかと思う。13日についてはこのパターンで行って頂いてはいかがか。

(伊勢商工会議所 菊川氏)

- ・（配付資料の一つとして）「NTN超小型モビリティ安全管理・使用説明資料」という資料の表紙を見ると、ここには既に貼ってあるのでは？情報を小出しにされている気がするが（笑）。「もう貼りました」って頂いたら、「異議なし」として進められるのだが。

(事務局 太田)

- ・これで準備していますので、これをお願いしたいと思います。

(朴会長)

- ・車に貼られているのは、どのようなデザインなのか？

(事務局 太田)

- ・（資料の）「ポスター・チラシ案」と同じデザインです。「伊勢市低炭素社会創造協議会」がきれいな書体を用いて丸い配置で入っています。

(朴会長)

- ・では、いくつかの選択肢があるということで（より詳しいルールについては）提案して頂けるものとして、13日は（提案通りの）形で（披露を）行う。いくつかのバージョンや使い方の基本的なルール原案については、できるだけ早い段階で提案をさせて頂くということになるかと思う。
- ・みなさまよろしいでしょうか。ありがとうございました。

(日産自動車株式会社 藁和氏)

- ・決まったところでこんな意見を出すのも申し訳ないが、自動車に（マークが貼って）ある図と、プリントされているものを見比べると、感覚的な判断では、黒い字の部分（協議会の名称表示の部分）は、車両の方が大きいような気がする。（追加の名称表示については）字の大きさを決めたり、バランスを見たりということもあろうかと思う。副市長さんのご意見のように、今回は暫定的、という言い方は妥当ではないかもしれないが、質問があった時には、「シンボルマーク本体の部分の

み決めさせて頂いた」とし、使い方については「いま議論しています」というような形で進めればよいのではないか。そうすれば、プリントアウトで提案されたデザインも正しいし、NTN 社がペイントしたのも正しい、ということで、13日は開催して良いのではないかと思う。

(朴会長)

・若干色々なバージョンが出てくると思われるが、13日に関してはこういう（事務局より提案のあったような）形で使わせて頂く。その他の色々なバージョンに関しては（後日）提案させて頂く。せっかく決めさせて頂いた（シンボルマーク・ピクトグラム）なので、より多く活用できるように皆さんのお知恵をお借りできればと思っている。ありがとうございました。

(朴会長)

・議題2の「EV等の活用について」に議事を移りたい。引き続き事務局からお願いいたします。

(事務局 太田)

(資料3「超小型モビリティの活用」参照)。

・2人乗り電気自動車であるNTNより貸与される車両について。

5台の超小型モビリティを協議会に貸与され、実証事業としてやっていきたい。公用車、協議会メンバーでの活用などから始め、次の段階である観光ルートでの活用に向け進めていきたいと考えている。

超小型モビリティには特別に認定制度があり（資料「超小型モビリティ認定制度の概要」参照）、軽自動車の規格に含まれる。125cc以下（電気の場合は8kw以下）に相当までという枠組や、60km/hまでの制限速度など、さまざまな制限下で規制緩和を受けて走行が可能となるものである。また、運行エリアの限定、安全な運行管理体制の整備、運転者に対する適正な教育などを前提に認定を受けることになる。

この車両については、NTN社の方でインホイールモーターシステムというものを開発・制作しているものであり、車体はタジマモーターコーポレーションでつくられている。

・1人乗り電気自動車「コムス」について。

伊勢市レジ袋検討会からの寄附金を活用し、国庫補助二分の一も使い、計4台を協議会で購入する。まずは観光協会の業務用として市内で活用するところから始め、同様に観光ルートでの活用を、今後検討していきたい。

・運行エリアについて。

NTN社から貸与の超小型モビリティについては運行エリアを限定する必要があるため、伊勢市全域、玉城町・明和町全域、松阪市一部地域、津市一部地域ということで限定し（運行地域地図参照）、県環境イベントや、美し国対抗駅伝の伴走などでの活用も念頭において、認定申請している。

・運行予定について。

NTN社から貸与頂く5台の車両については、伊勢市役所に1年間貸与頂くということで、2号車の商工会議所に貸与頂くものは6ヶ月間。3号車は6ヶ月間、伊勢市観光協会が使う予定。4号車については旅館組合として、伊勢戸田家料庵さんが3ヶ月間、その後に安土桃山文化村の方での使用が検討されている。5号車は三重県バス協会として三重交通伊勢営業所で3ヶ月間使用、その後ヤマト運輸が使用を検討中。

1人乗りのコムスについては、伊勢市駅前の手荷物預かり所であったり、外宮前観光案内所、内宮前観光案内所などでまず活用を進めていく予定。

・段階的な運行について

第一段階としては、各車両の使用者において日常業務などに使って頂き、観光モデルコースなどを回ったり、協議会のメンバー内においての試乗会などをやりながら進めていきたい。13日の環境フェアにおいても、乗って頂く機会を設けるよう準備中。

第二段階としては、市民や観光者を対象としたモデルコースなどで使っていけたらと思っている。従って、観光モデルコースを設定し、そこを走るような試乗体験などをやっていきたい。

これについては、さらなる安全な運行体制の整備が必要なため、ここの部分は検討が必要。観光客や市民に使うことになると、超小型モビリティのカーシェアリングの方法などの検討が必要になってくる。これをやっていくためには管理運営組織が必要になってくる。このあたりの検討に向けて超小型モビリティの活用検討会というような作業部会を設けて検討していくのが適当ではないかと思っており、提案をさせて頂く。

・観光ルートについて。(資料「伊勢市内観光ルート」参照)

通常の(伊勢の観光ルートとして知られている)外宮や内宮とは異なるところを回る方が良いのではないかということで事務局で用意した案である。中部運輸局の認定に際しては、このルートも含め、全3つの観光ルートを走れるよう、認定申請をしている。

・安全対策について。

特に2人乗りの超小型モビリティについては、中部運輸局に認定申請をするにあたり、認定の条件や保安上の制限などを必ず守るといったことや、道路運送車両法や道路交通法の遵守、事故時の報告、使用者に対する認定制度の周知などが義務づけられており、誓約書も提出している。

車両管理、安全運行体制についても、それぞれの車両の管理者ごとに管理責任者を設置することや、運転して頂く方にあらかじめ安全運転講習を受講して頂くこと、記録・事故時の緊急連絡体制の整備などが求められている。そういった体制を組み合わせながら、安全に細心の注意を払いながら進めて参りたい。

超小型モビリティの安全管理については資料(「NTN超小型モビリティ安全管理・使用説明資料」参照)の中に車両の使用法、安全運行、記録、報告の詳細を記載して頂いているので、これに基づいてしっかり講習を受けて頂いた上で運転を行って頂くことになる。

保険などについては、超小型モビリティ(NTN社から貸与の車両)についてはNTN社で任意保険に加入して頂いている。1人乗り電気自動車「コムス」については、協議会で任意保険に加入するというので、前回報告させて頂いた通り。

9月30日に超小型モビリティの貸与式を伊勢市役所玄関前で行いました。また本日外宮前広場に2号車、3号車の2台がやってくる。(資料では1号車と3号車となっているため訂正)。1人乗りの電気自動車コムスについては10月13日の伊勢市環境フェアに間に合うように入ってくる。また近日中に伊勢市レジ袋検討会から協議会への贈呈式を計画している。

・展示等の予定

伊勢市環境フェアで10時~15時まで展示と試乗会を予定している。運転する予定の方向けの安全運転講習もNTN社のご協力を得て行う予定である。

11月9日(土)10日(日)に外宮前広場で開催される伊勢楽市の方にも出展するように準備している。

12月1日（日）に津市メッセウイングみえで開催する県のイベント、みえ環境フェアでも、超小型モビリティはもちろん、自動車メーカー各社様からご協力を頂き、車両の展示を行う。

12月8日に行うハーフマラソン「お伊勢さんマラソン」でも、NTN社の改造した電気自動車と日産社からのリーフ2台を伴走車として準備を進めているところである。

ここ（以上）のところについては、超小型モビリティ（コムスとNTN社から貸与頂く5台の車両）について具体的に検討していく作業部会を設置してやっていきたい、という提案をさせていただきます。

（朴会長）

・質問等ありますでしょうか？

（トヨタ自動車株式会社 河合氏）

・NTN社から貸与される車両のスケジュールを教えてください。中部運輸局からの認定は既に受けられたのか？

（事務局 太田）

・中部運輸局からの認定は、いま現在申請しているところで認定は出ていない。数日中に出るような見込みで準備を進めている。

（NTN株式会社 松尾氏）

・私どもは地元企業として協議会に参加させて頂き、日本で初めてのインホイールモーターの超小型モビリティの実証事業をキックオフする段取りの最終段階に来ている。その間、朴会長はじめ協議会のみなさま、伊勢市、三重県、連日のごとく認可作業で膨大な協議をさせて頂いている。この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

・補足1点め、認可手続きについて。

手続きの流れは2つある。国土交通省は地方運輸局を中心にして、規制緩和と利用計画の制限の手続きを行う。技術的には軽自動車検査協会の手続きになっている。実は今日車検場に持ち込む予定だったが、決裁がまだ軽自動車協会の本部で時間がかかるということなので、もう1日2日時間がかかる予定になっている。審査はもう終わっていると理解している。地方運輸局の方も、書類を待っている状況にある。

キックオフについては今週の13日、アリーナに5台そろえて試乗会をさせて頂き、合同実証のキックオフを予定通り開始したいと思っている。

貸与式についてはこのプレスの最後に資料がある。私どもの車両の仕様、特徴については前回ご説明しているので、これをご参照頂ければと思っている。

5台の貸与に関する実証事業については、国交省についても、私どもにとっても初めての審査である。（静岡県において行ったのは軽自動車の組み立て車で特別に国交省と連携し、同じホイールモーターで（車検を）とったものである）。超小型モビリティとなると審査官の数も少なく、他の自動車メーカーさんもかなり苦労していると聞いている。その辺は本省にも理解して頂き、できるだけ早く、円滑に進めたいと思っている。

重要なポイントであるが、この手続きは協議会をまとめて代表として県知事が申請している。（配布されている）「安全管理・使用説明資料」の表紙に3つの重要なポイント（各法令厳守、事故時

の遅滞なき通報、認定制度の趣旨の十分な理解)が書いてあるが、これがいわゆる運輸局長と県知事との誓約書内容である。これが一番のポイントで、認定の取り消しにつながる遵守事項になる。

・補足2点目、安全管理について。(資料3「超小型モビリティの活用」の補足説明資料として「安全管理・使用説明資料」参照のこと)

ごく概略をポイントだけご説明する。

本日、協議会終了後2台の車両を用意しているので、早速試乗及び最初の安全管理の講習会を予定している。

13日はシンボルマークの表彰式後、国交省からの指導もあり市・県・(NTN社)が教育責任者に指名されているため、NTN社が安全講習会を開催する。日曜日15時まで行っており、試乗と安全運行管理につながる講習、質疑応答ができる。

事故、不具合等の発生については目次の次のページにあるとおり。連絡が繋がらないと困るため、携帯電話番号、連絡優先順位を記入している。緊急連絡対応に関してはぜひ留意頂きたい。

1ページめに小型モビリティの趣旨が書かれているが、十分安全運行に配慮して頂きたい。

4ページめ、一般車両との違い。私どもは軽自動車に極力近い大人が2人横に乗れる幅をとっているが、運転席が車両の中央にある。前1人、後ろが大人1人もしくは子ども2人の乗車になる。ページ最下部の見慣れない標識については、国交省の方から規制緩和標識としてつけることを義務づけられているもので、前方と後方に貼られている。

5ページは重要。貸出における管理責任者、特に車両保管、充電管理、日常点検管理はぜひお願いしたい。運行管理については6ページめから安全運転講習の説明がある。

10ページ以降が事故・車両不具合の対応だが、詳細は13、14ページにいくつかのケース分けを掲載した。緊急時の対応にあたっては、どういう場合はどうすべきかということをおおまかじめ想定しておく必要がある。不明点は事前に質問頂ければと思う。

最後は操作方法。実地で経験して頂くのがベスト。操作は至ってシンプル。ただ、電気自動車であるため、あたりまえのことをあたりまえにしっかり守ることが最も重要な安全管理。15ページ以降は一読をお願いしたい。

よく質問にある点として。内燃系の燃料の場合のガス欠、燃料ゲージの見方などはおわかりかと思う。電気自動車の場合はディスプレイに100%という表示がある。50km程度が近距離の100%(に相当する)の距離。ひと目盛りが5km。電欠を起こすと交通渋滞等を起こすため、30%ぐらいの15km程度走ることができる余裕があるうちに、充電施設へ向かうことを心がけて頂きたい。

以降よく見ておいて頂きたい。

様々な書式も掲載されているが、これは国交省から安全運転管理、運行記録、車両管理の徹底という観点から指導されているもの。(注:配付資料では「別添7」等の記載があるが、書式集は申請書類認可の添付書類のため、そのような資料番号が付されている)

書式7以降は、地元の緊急(事故・不具合発生時)対応のためのもの。地元では、市からの紹介により、公用車の車検などを行っている木本自動車と連携させて頂き、車両のタジマ、NTN、木本自動車ですぐに対応できるような準備を考えている。

書式10。あたりまえのことだが、日常の点検は管理者をお願いしたい。(書式10のような内容の)チェックはぜひお願いし、不明な点は地元木本自動車さんとともに、わたしたちにも問い合わせ頂けるような体制をとっている。

なお、さきほど(事務局の方から)1~5号車の(貸出先の)予定(の発表)があったが、これは事

前に皆様方に向けて行ったアンケート調査や要望の聞き取りによるもの。2、3号については商工会議所、観光協会と一体となりながら、参加のメンバー含めて色々な実証事業をやらせて頂きたい。4、5号車についてはだいたい3ヶ月ぐらいの貸与で、希望する協議会のメンバーがあれば個別に対応させて欲しい。

(朴会長)

- ・ありがとうございました。みなさま質問はありますでしょうか？(ないようなので)次に移らせて頂きます。
- ・その他ということでは…

(事務局 太田)

- ・すみません、電気自動車の活用ということで本日追加で配った三菱、日産からの資料があるので、そちらを(説明して頂きたい) …

(三重三菱自動車販売株式会社 谷奥氏)

- ・三重三菱自動車販売株式会社の谷奥と申します。よろしくお願いたします。
- ・(資料「MIEVシリーズモニター希望者募集方法」参照)。Buzz life といい、新商品などをモニターで使ってもらい、品評の共有をするというサイト。ここに、三菱自動車から電気自動車3車種(iMiEV、minicabMiEVバン、minicabMiEVトラック)を30日間保険つきで貸与するキャンペーンを掲載している。充電設備が必要だが、充電設備がない家庭や事業所には、200Vの单相を分電盤からひく工事(コスト予想5~7万円)費用補助も受けられ、全くタダで試乗することができる。使用期間が終わった後も(モニターのために新設した)充電設備を使うことができる。皆様方の中で興味のある方は、ホームページの方でアクセスをよろしくお願したい。

(朴会長)

- ・募集期間は10月14日までですね。ありがとうございました。では、日産さんどうぞ。

(東海日産自動車株式会社 藤原氏)

- ・日産はリーフを発売以来、ずっとモニター制度を行っている。電気自動車を乗用車タイプで発売する時に、お客様の頭には「電気自動車ってどういうものなの?」「電気をたくさんくうんでしょ?」「そんなに走らないんでしょ?」という不安ばかりがよぎりがち。それを払拭するために2年くらい前から30日間のモニターキャンペーンを実施している。自宅に無料で普通充電器を設置させて頂き、30日間試し乗りをして頂くもの。遠出して頂いても、近距離で日常乗って頂いてもいい。電気自動車がどんなもので、生活にどう溶け込めるのかをお試しでやって頂き、よろしければそのままリーフの購入手続きをして頂くという、販促策の一環である。このプロジェクトの中でも、旅館やホテルなどで30日間試用し、ご宿泊のお客様の送迎に使って頂くなどのご提案をさせて頂いてきたが、なかなか広まっていない。もう一度伝えさせて頂くのでご利用頂きたい。窓口は三重日産(本日は欠席)が引き受けるので、よろしくお願いたします。

(朴会長)

- ・募集期間などは特になく、いつでも(申込みは)OK ですね?ありがとうございました。
- ・その他の項目に移らせて頂きたい。報告等があるようなので、事務局よろしくお願いたします。

(事務局 太田)

- ・作業部会の進行状況について報告をさせて頂く。
- ・「観光部会」について。具体的な観光プラン作成については夏場は遷宮関連の行事等があったためなかなか集まれなかったが、10月3日に第1回の作業部会を開催。その場でみなさんから多数(の、紹介スポットを)披露頂いた。今後はドライブルートを作成していくが、電気自動車を活用して、伊勢の暮らしや歴史、神宮さんに関わるものなどを体験頂けるような、既存のものとは違った体験をして頂けるような観光ルートをつくっていこうと、現在進めている。
- ・「充電施設の設置運用指針」について。伊勢市役所でも充電器を設置していく動きがある中で、早急に検討を進める必要を認識。7月末、8月末の2回作業部会を開催した。各充電器メーカーに協力頂き、多数資料を収集した。それら資料を事務局でまとめ、指針のたたき台の作成作業を行っているところ。できあがり次第、作業部会の方を含め、協議会のみなさまにもご意見を頂き、伊勢で誰もが使え、使いやすい充電施設を広めるための指針作りを進めていきたい。
- ・「外宮参道」について。先ほど案内したように11月に行われる楽市で出展をする。協議会の車両としてコムスとNTN社から貸与の超小型モビリティの展示を予定している。NTN社にはQ' moをもってきて頂けるよう、検討中である。

(NTN株式会社 松尾氏)

- ・いまの説明にあった「Q' mo」について、補足説明(別紙「(10月13日)出展企業等・内容一覧」に添付のNTN社提供「Q' mo」資料参照)。  
東京モーターショーで(出展したもので)子どもたちから反響が大きく、地元からの問合せも多かった車両。日曜日(10月13日)の試乗会にもってきて、子どもたちも乗れるような設営をさせて頂く予定。(この車両の開発)ポイントは、インホイールモーター(であるということ)、NTN社の主力商品であるCVJ(等速ジョイント)に代表されるようなジョイントがないため、4輪独立駆動で(真価が発揮される)。縦列駐車やその場回転なども可能。しかしながら国交省との基準の関係もあり、いまの(伊勢市に貸与する)5台はそこまで実現していない。そこで、インホイールモーターカーの将来的な本来の良さを見て頂けるよう用意したコンセプトカーが「Q' mo」。公道走行は不可能なため、限られたスペースで、EVの将来の良さをご理解頂くことができる。

(事務局 太田)

- ・ひきつづきまして資料でお配りしている「資料4(資料4の表記漏れを確認)EV・PHV用充電器整備のためのビジョン」について。(当ビジョンは)8月に完成しているため、このビジョンに合致したところで、公共性などがあるところについては、充電施設と充電器設置のための工事費について3分の2の補助が充当されるようになっていく。これについては、資料最後にセミナーの案内(「EV・PHV用充電インフラ・セミナー」)を添付した。(このセミナーで)先ほどのビジョンの中身や補助の仕組みの説明会をさせて頂く。ぜひともこの機会を活用して頂き、充電器を設置して頂けたらと思う。

10月29日(火)14:00~2時間/三重県総合文化センター(津市)

充電器のビジョンや補助については、個別にも説明をさせて頂きたい。セミナー以外にもお問い合わせ頂きたい。

・「三重県気候講演会」について。(資料4に添付のチラシ参照)

11月13日(水) 13:30~16:00 / 三重県庁講堂

こちらでは、気象庁の方、三重テレビのお天気キャスターの方とともに、朴先生にも講演メンバーに入って頂き、気候変動に関する講演会を開催する。ご参加をお願いしたい。

(事務局 鈴木課長)

・いま説明した充電器のビジョンについて、補足をさせて頂きたい。(17ページ参照)。これは経産省の「次世代自動車充電インフラ整備促進事業」というもの。24年度の補正(予算)で1005億円がついた。事業としては事業名第1から第4までがある。第1では、三重県がつくったビジョンに合致するもの、かつ公共性を有するものは、充電設備の機器および設備工事費の3分の2が(補助の)対象になるということ。第2ではビジョンに基づかないが公共性を有するものの充電設備については、充電設備の機器および設備工事費の2分の1の補助が出る。第3の事業としては、マンション駐車場・月極駐車場に充電器を設置する場合は、(同様に)2分の1の補助が出る。第4の事業、それ以外の場合は設置工事費は(補助)出ないが、充電設備機器だけは2分の1(の補助金)出るというようになっている。

前々から新聞報道がされており、この3分の2、2分の1以外の部分について、4大自動車メーカー様(トヨタ・ホンダ・日産・三菱)で一部ご負担を頂ける計画が進んでいるとのことである。そのような情報も含め、先ほどご案内した10月29日のセミナー(「EV・PHV用充電インフラ・セミナー」)ではそのような新しい情報も出てくると思われる。ぜひご参加願いたい。

・7月の協議会で電気自動車バスの話をさせて頂いた。アクションプランでは(電気自動車バスの運行は)中長期の計画になっていたが、前倒しして、今年度の計画としてご承認頂いた。三重交通さんは、来年(平成26年)4月ぐらいには(電気自動車バスを)運行したいとの計画です。国、県、市の補助金をそれぞれ活用しての整備を行うことを考えている。市の補助金については既に予算決定がなされており、県の補助金については現在議会で議論中という状況である。

(朴会長)

・ありがとうございました。この場には三重交通の谷口も参加しているので一言頂きたいが、その前に…県はまだ(電気自動車バスに対する補助)が決まっていないんですか？

(事務局 鈴木課長)

・県については、県議会の常任委員会では承認を頂いている。この後10月16日に行われる本会議での議論を待っている段階である。その場で承認頂ければ補助金はあるという(見込みの)状況。

(朴会長)

・(三重交通の)谷口さんから一言頂きたい。私が知る限りでは、あれだけ大きな電気自動車バスが運行できるという形になると、それは日本で初めてのことだと聞いたことがあるが…？

(事務局 鈴木課長)

・まだ（あれだけ大きな電気自動車バスは）走っていない。今走っているのは全国で5団体で、（その5団体の申請車両は）コミュニティバスと中型バスだけ。いまの時点では「前例のない」大型バスということになる。

（三重交通 谷口氏）

- ・三重交通の谷口でございます。本日は三重県バス協会として出席させて頂いている。
- ・当社は乗り合いバス、貸し切りバス合わせて800台あまりを三重県内を中心に走らせている。（それらのバスが）排出するCO<sub>2</sub>、窒素化合物は相当なものにのぼるため、CO<sub>2</sub>削減や低炭素社会への取り組みとして、何かできないかと（電気自動車バスの導入を）検討してきた。全国で運行している電気自動車を調査したり、（電気バスは既製品ではないため）バスを改造するメーカーを訪問して調査するなどしてきた。最終的に（わかったのは）、（オーダーメイドであるため）非常に高額で運用上の制約も多い（ということ）。バッテリーの関係上、運行に関する制約もある。途中で運行をやめて充電をする時間も必要である。軽油によるものに比べて非常に大変で足かせにもなることがわかったが、環境対策の面では電気バスが最適という判断をした。電気バスを走らせることでCO<sub>2</sub>削減の効果もあると同時に、走っているのを見てもらうだけでも、（低炭素社会化への）PR効果も見込まれるという点からも、（電気自動車バスの）導入を決定した。
- ・本年度の国交省の支援の対象としては、人口の集中している大都市圏、観光地、環境対策都市となっている。その中の観光地、式年遷宮で脚光を浴びる伊勢市ということで、当社は電気自動車バス導入の計画を進めてきた。地元の方を含めて全国からたくさんの参拝客が来る。運行の予定としては、電気バスの良さを知って頂くためにも、（伊勢詣りの）玄関口である宇治山田駅と伊勢市駅から外宮、内宮を結ぶ線での運行を考えている。
- ・導入するバスは、営業運転をしていない大型の（電気）バス。全長11m、定員70名ほどの規模の車両になる。1日5往復程度の運行を計画している。現状お客様が多いので、外宮、内宮を往復する便は、平日で60往復ほど。その約1割を電気バスにすることになる。
- ・充電設備については急速充電器を1機、三重交通の伊勢営業所の方に設置する予定。
- ・運行開始は来年春をめざしている。全国初（のケースと銘打つことができる）なら嬉しいが、（鹿児島的大型バス運行団体が先に認可されているため、全国初となるのは）難しいかと思う。現在は11m級の電気バスは運行しておらず、最大で9m級のバス（を走らせている会社）が何か所かある。
- ・当社のもくろみとしては電気自動車バスの運行により、低炭素社会への取り組みを広くアピールしたい、電気自動車の普及に弾みをつけばと思っている。バスボディのラッピングにより、当協議会の取り組みやシンボルマークなども掲出させて頂き、取り組みそのものや、伊勢市、三重県の環境対策を広く広報できればと思う。式年遷宮で湧くこの伊勢にお越し頂く参拝客のみなさまや観光客のみなさまへのPRはもちろんのこと、バスが走ることにより電気自動車・電気バスを目的としてお越し頂ける方を増やしたい。全国の行政や事業所からの視察、バスのファン（の来訪）が増えればと思っている。そうすれば少しでも地域経済への貢献ができるかと考えている。
- ・最後に、この電気自動車バス導入に対し、ご理解ご協力をたまわっている伊勢市、三重県にこの場を借りて御礼したい。ありがとうございました。

（朴会長）

・ありがとうございました。この協議会は(発足から)1年を過ぎているところであるが、皆様のお陰で、式年遷宮という歴史的な大きな行事を一つのきっかけとして、環境文化といえる(ことが起きている)のではないかと。昔ながらの伝統を守りながら、最先端(の技術)を採り入れるという、世界一カッコいい街になるんだなと思っている。三重交通社のおかげで大型(の電気)バスが走り、NTN社の超小型モビリティが走り、トヨタ社のコムスが走り、三菱社のiMiEVが走り、日産社のリーフが走り…そのように、産業の最先端的なものが伊勢に集まってきている。そこでみなさまとともに「おかげさま」にふさわしい活動として、ここに住んでいる地域住民のみなさまはいうまでもなく、首都圏、都市圏から来ているお客様も一緒になって新たな環境文化を創るにふさわしいものが見えてきた。私だけでなく、菊川副会長はじめ各会員様も嬉しく感じているのではないだろうか。まだ気が早いかもしれないが、来年の春までには色々な形でのものがそろい、動き出せるのではないかと思う。それに期待したい。

・13日の伊勢市環境フェアの場を借りて、我々が何をめざして何をやっているかということをご皆さんに披露したい。そのためにも(協議会の皆さんに)ぜひ参加して頂き、(さらには)より多くの方に皆さんがこれまで(協議会に)出席して感じたことや、ぜひ伝えたいと感じたことを、直に伝えて頂く良い機会にして頂ければと思う。

・その他、事務局からまだありますか。

(事務局 太田)

・状況説明で一点漏れていることがあった。豊田通商社の方で、伊勢市内の商店街と連携し、シェアリングの検討をされているとのこと。ご報告をお願いしたい。

(豊田通商株式会社 浅井氏)

・突然(報告の機会を得た)ため、資料を用意しておらず申し訳ありません。  
・もともと協議会に紹介していたコムスを使ったシェアリングシステムだが、当協議会としては次の段階で可能性があればということで記載させて頂いている。機会があればよろしくお願ひしたい。  
・豊田通商社で独自にマンションを使つてのコムスのシェアリング実証を進めていたが、これの第二ステップとして、商用、業務用のシェアリングを三重県(太田氏)伊勢市(坂本氏)に相談してきた。伊勢市で「うらのはし商店街」というところが、宅配事業の開始を検討されているという情報を得て、紹介を頂いた。(当会議の)午前中に(会議をもち)1台持ち込んで、業務用のシェアリングを始めようということを決めた。「うらのはし商店街」にも話をして、この(協議会のシンボルマークの)ステッカーをつけて伊勢市内を(他の導入車両と)同じように走る状況にもっていきたい。

(朴会長)

・せっかくの機会なので、いろいろお知らせなどありましたらお願いします。

(NTN株式会社 松尾氏)

・日本国民の8人に1人が訪れる伊勢。訪れる方に、どういふおもてなし＝「おかげさま Action!」を行うか。伊勢市ならではの観光モデルコース(づくり)は、もっとも難しく、もっとも重要なところかと思う。三重交通には5号車を借りて頂き、そういうものを追い求めようという議論をして

いる。伊勢には、大型バスは入れないが歩いて回るにはちょっとつらいという、通勤用なら  
ではの（動きが求められる）昔ながらの参詣道がある。超小型通勤用と大型 EV バスを連携  
させるのは日本初である。鉄道に乗ってきたお客様に、EV に触れながら地球環境にやさしい、新  
しい小型モビリティならではの観光のあり方を winwin の関係で提案できたら、これは日本初、ト  
ップランナーになれると思う。

・現状では「引きつづき検討」となっているが、年内は協議会メンバーで試乗会を行い、来年は来  
て頂いた方にどのような形で歴史のある「こみち」を最先端の技術で味わって頂く。これを日本初  
で引き続き詰めて頂けると有り難い。最大限の尽力をするつもりである。

（朴会長）

- ・その他、みなさまの方からぜひシェアしたいことがあれば。若干時間がありますのでお願いした  
い。（ないようなので）ありがとうございました。
- ・次回の開催についてはまた日程を調整させて頂くということで、お願いしたい。
- ・本日は 16 時から NTN 社から貸与の超小型モビリティの試乗をさせて頂くことになっている。ち  
ょうど良い時間に終えることができた。有難うございました。
- ・これをもちまして、第 6 回電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会を終わらせて頂  
きます。ありがとうございました。

以上